

## 2020年度のボランティア・NPO活動センターをふりかえって ～コロナ禍の中でのチャレンジ～

センター長 筒井のり子

本センターは2001年度創設以来、さまざまな組織や人々と連携、交流を深め、学内外におけるボランティア活動の振興が図れるように事業を実施してきました。早いもので、20周年を迎えることができました。20年間、多くの方々のご協力、ご支援をいただきました。ここに改めてお礼申し上げます。

また、2020年3月に深草キャンパスに「成就館」(文化系サークル活動拠点:学友会館跡地)が完成し、その1階にセンター(事務室と学生スタッフ室)が移転。奇しくも20年目のスタートを新しい建物で迎えることができました。

しかし、20年目にあたる昨年(2020年度)は、世界的に新型コロナウイルス感染症の脅威に晒され、私たちの日々の暮らし、仕事、活動は、様々な制約を受けました。本学においても入学式や新歓行事が中止となり、前期は学生の大学への入構が原則禁止、全ての授業がオンライン化されました。また課外活動も禁止となったことから、本センターの活動も大きな影響を受けました。

8月末までは「行動指針レベル2<第2版>」(本学危機対策本部)に基づき、学生スタッフの活動については、オンラインによる活動を中心に行うこととし、学生スタッフの募集活動(説明会・ガイダンスなど)や研修会、イベント等についてもオンラインで実施、合宿や対面による活動は中止となりました。また、2011年以来継続して実施していた宮城県石巻市雄勝への復興支援ボランティアバス運行(8月と9月を予定)、夏季の海外体験学習プログラムは中止せざるを得ませんでした。

9月からの「行動指針レベル2<第3版>」では、対面授業も一部実施されるようになり、学生の入構制限も緩和されたことから、センターとしても、「行動指針レベル2<第3版>」にとも

なうセンターの活動方針」を策定し、後期の授業開始後は窓口相談を開始しました。また一定条件(健康チェックや人数制限、時間制限など)のもと学生スタッフの対面活動も再開しました。

コロナ禍での活動再開については、7月からオンラインで再開した「ボランティアセンター会議(ボラセン会議)」(以後、概ね月1回)で、学生スタッフからの要望や不安なども受け止めつつ、ともに方針を確認しながら進めていったことは、センター運営として重要なプロセスであったと思われます。

一年をふりかえってみますと、完全中止としたものは少なく、多くの事業活動は時期や方法を変更/工夫して実施することができました。それは、学生スタッフやボランティアコーディネーターの頑張り、それを支える事務職の皆さんの力、さらにセンター委員会メンバー(教職員)による多角的な情報提供やご意見があったからこそです。以下、2020年度に実施した主なものを紹介したいと思います。

### <ボランティアリーダーの育成>

まず「ボランティア入門講座」は例年5月～7月に3回(対面講義、体験、対面でのふりかえり)実施していますが、2020年度は、8月にオンライン(オンデマンド方式)での講座を実施、感染状況が落ち着いていた10月～11月にボランティア体験を実施しました。コーディネーターの皆さんの開拓/調整によって、7種類のボランティア体験(一つはオンライン



での活動)が用意されました。入門講座への関心は高く(例年以上の申し込み数)、コロナ禍において何か貢献したいという学生が多くいるということに励まされました。

このほか、9月に「ボランティアリーダー養成講座」(オンライン)を開催、また深草学舎の教養教育特別講義「ボランティア・NPO入門」への協力を行いました。さらに12月には「ボランティアコーディネーション力3級検定」(JVCA)の共催(学内者のみに限定して対面実施)も行いました。

#### <国内・海外体験学習プログラム>

夏季の海外体験は中止せざるを得ませんでした。春季は3月に「つながる福島ワークショップ」(対面とオンラインのハイブリット型)と、「近江八幡の左義長祭～コロナ禍において伝統文化の継承について考える～」(現地訪問とオンラインでのふりかえり)の2つの国内体験学習プログラムを実施しました。また海外についても、NGOの協力のもと、フィリピンとタイ王国についてオンラインでのスタディツアーを実施し、当初の定員を超える参加者がありました。

#### <学生スタッフ企画>

新歓行事や龍谷祭などの学内行事、また継続して取り組んできた様々な地域行事が不開催となったことから、学生スタッフも活動の方向性に悩み模索する1年でした。しかし、Twitterなどを活用した広報活動や動画作成など、新たなチャレンジを行いました。後で紹介する「センター20周年記念オンラインイベント」や「東日本大震災復興支援フォーラム10年」(オンラインイベント)に向けて、独自企画や当日の運営に多大な役割を担いました。

以上の通常の事業に加えて、2020年度は2つの大きなイベントを実施しました。いずれも、新築された成就館において対面で実施することを前提に、2019年度から準備してきましたが、

計画の変更を余儀なくされました。センター委員会や東日本大震災等復興支援プロジェクトで、中止や延期、あるいはオンライン開催などの選択肢について丁寧に議論を重ねた結果、いずれも予定通り2021年2月にオンライン開催することとなりました。(詳細は、それぞれの報告書をご覧ください)。ご登壇、ご協力いただいた皆さま、丁寧な準備をしてくださった職員、学生の皆さん、心から感謝いたします。

#### <東日本大震災復興支援フォーラム 発災から10年 ～あらためて震災を振り返り、その経験を「知恵」とする～>

2月6日に全国から205人の参加を得て開催されました。この10年間の本学の取り組みの紹介、卒業生からの報告、宮城県在住の佐藤敏郎氏による講演、神戸市兵庫区社会福祉協議会の長谷部治氏による講義などを配信しました。

#### <ボランティア・NPO活動センター20周年記念事業 ～ボランティアで未来を拓く～>

2月11日に開催。当日は、国内と海外から合わせて259人の参加がありました。本学センターが20年続いてきた背景、学生スタッフ経験者へのアンケート調査結果、現役学生スタッフによる企画、フォトジャーナリスト安田菜津紀さんと入澤崇学長との対談、といった内容で配信しました。卒業生ともあらためてつながるいい機会となりました。

以上、2020年度は予想もしなかったコロナ禍の中でもがいた一年でしたが、その中で生み出されたもの、学びにつながったことも多くありました。この経験を次年度に生かしていきたいと思います。今後とも、ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。